



町内一周駅伝競走大会

町内8区間19kmをタスキでつなぐ第41回国見町内一周駅伝競走大会が11月3日、秋晴れの空の下で開催され、12チームが参加しました。

首位争いや小坂チームの躍進、4区では区間賞の同時受賞など、終始目が離せない展開が繰り広げられ、沿道からは多くの声援が送られました。

結果は次のとおりです。

団体賞

優勝	藤田Aチーム	記録1時間6分46秒
準優勝	小坂チーム	記録1時間13分11秒
第3位	大木戸 義経	記録1時間13分33秒

区間賞

※敬称略

第1区	大槻 航	藤田Aチーム
第2区	佐藤悠貴也	藤田Bチーム
第3区	佐藤 汰一	大木戸 義経
第4区	渡辺 ゆき 鈴木ほのか	藤田Aチーム 大枝チーム
第5区	菅野 元紀	くにみ観月台走友会A
第6区	高橋 篤輝	藤田Aチーム
第7区	大内龍太郎	藤田Aチーム
第8区	戸田 良樹	国見町役場

【敢闘賞】小坂チーム

【ニアピン賞】くにみ観月台走友会A



タスキに込めた想いをつなぐ

第29回ふくしま駅伝

第29回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会が11月19日、白河市をスタートし、福島県庁を目指す16区間94.8kmで繰り広げられました。

今年は県内59の全市町村、53チームが出場しました。国見町チームは、応援に駆け付けた町応援団のみなさんの声援に応えながら力走し、記録5時間45分16秒で総合第34位、町の部第15位の成績を収めました。

国見町の誇りを胸に、全力を尽くしてコースを駆け抜け、仲間にタスキをつないだ選手たち。その姿は、私たちにたくさんの感動を与えました。



平成29年秋の叙勲において、町内から朽木勝之さん、古溝忠一さん、鈴木豊さんの3名が荣誉に輝きました。

秋の叙勲

現在、町農業委員会長を務める朽木勝之さんは、町内で代々続く米農家としておいしい米づくりにこだわり、永きにわたり町の農業振興に尽力されてきました。平成26年には、皇居で行われる宮中行事・新嘗祭への献穀者として福島県から朽木さんが選ばれ、丹精込めて育てた県オリジナル品種の「天のつぶ」を献穀されました。

また、「家族の理解と協力があつたからこそ」と語る朽木さんは、36年の永きにわたり町消防団活動にも尽力し、平成15年から2年間、団長を務められました。「火災の知らせが入ると仕事場から急行することもしばしば。そんな時はいつも妻が法被を持って駆けつけてくれたり、車で送り迎えしてくれました」と、妻の京子さんと二人三脚で駆け抜けた消防団人生を振り返ります。

今回の受章について、朽木さんは「支えていただいたみなさんのおかげです」と謝意を表するとともに、「これからも町の基幹産業である農業振興のため、微力を尽くします」と、今後の抱負を語りました。



旭日双光章

朽木 勝之さん



瑞宝単光章

古溝 忠一さん

古溝忠一さんは、平成12年から福島共同高等職業訓練校塗装科指導員として後進技術者の育成に尽力し、現在、福島職業訓練技能協会会長、福島県職業能力開発協会副会長などの要職を務められています。その功績は多岐にわたり、平成21年に全技連マイスターの認定を受け、平成28年には厚生労働大臣表彰を受賞されました。

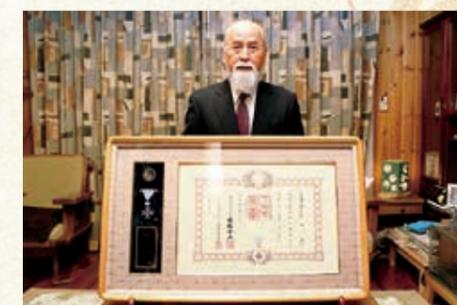
“先人の技術を途切れることなく後世に繋いでいく”という使命感のもと後継者の指導に精励されてきた古溝さんは、「塗装は“下地”が大切。それは人間も同じです」と語り、技術の伝承のみならず、人間性の育成にも力を注ぎました。現在、第一線で活躍する職人を数多く送り出してきた半生を、「指導者としても、人生の先輩としても、基本を重んじて指導してきました」と振り返ります。

「地域のみなさんに助けられて今の自分がある」と語る古溝さんは、「復興のためには技術者の力が必要。受章に恥じぬよう、技術者の育成を通して復興を後押しし、町に恩返しができる」と、今後の抱負を語りました。

鈴木豊さんは、昭和47年に海上自衛隊に入隊すると、通信設備の設営や保守管理を担当し、全国各地を飛び回りました。「至誠にもと懐ることなかりしか」を信念に、国民全体の奉仕者として誠実であることを重んじながら自衛隊職務に尽力し、平成23年に退職されるまで、39年の永きにわたりその職責を全うされました。

鈴木さんは、今回の受章を「家族や仲間の支えがあつたから」と振り返ります。特に妻の準子さんについては「“ありがとう”は言わなくても十分に分かってくれています。伝えるべきは“これからもよろしく”です」と、妻の永年の献身的な支えに感謝しました。

「やはり自分のルーツは国見。今後はさまざまな形で国見に関わっていけたら」と話す鈴木さんは、現在、あつかし歴史館サポーターや町文化財ボランティア、中尊寺蓮育成会メンバーとして活動されています。また、趣味の陶芸は玄人並の腕前。「今後は“国見”に特化した作品を作っていきたいです」と、第二の人生に向け新たな目標を語りました。



瑞宝双光章

鈴木 豊さん